

表1 大学・研究機関の機関リポジトリ

	ウェブアドレス	登録データ数 (2009/1/6付)
香港科技大学図書館	http://repository.ust.hk/dspace/	3,104件
香港大学 Scholars Hub	http://hub.hku.hk/	21,991件
香港大学 Theses Online	http://sunzi1.lib.hku.hk/hkuto/index.jsp	14,701件
香港城市大学	http://dspace.cityu.edu.hk/	1,935件
廈門大学	http://dspace.xmu.edu.cn/dspace/	3,402件
中国西部環境・生態科学データ中心	http://seekspace.resip.ac.cn/	34,992件



第Ⅱ部 地域編

中国 — 学術資源を共有する手段として

澤田裕子

●オープンアクセスへの動き

二〇〇三年二月、中国科学院が「ベルリン宣言」に署名し、これによって中国はオープンアクセスへの支持を表明したといえる。二〇〇四年五月には国家自然科学基金委員会と中国科技大学奇跡文庫アーカイブチームも個別に宣言に署名した。オープンアクセスの先駆者を招いて国際会議やワークショップを多数開催し、特に科学分野での情報公開についても議論している。中国政府はこのような活動を通して、公的資金による研究成果を全てオープンリポジトリに登録すること、現行の研究・開発評価システムを改善してオープンアクセス出版を促進すること、主要学術雑誌をオープンアクセスに変更すること等を推進している。さらに、二〇〇五年七月八日、武漢で中国大学図書館長論壇が開催され、北京大学等、五〇余の大学図書館の館長がデジタル化時代における大学図書館間協力と情報資源の共有化について議論している。そこで採択された「武漢宣言」は、特色あるコレクション構築やサービス展開、機関リポ

ジトリ(IIR)の創設を奨励し、情報の流通や共有化の新モデルとしてオープンアクセスへの参加を促している(参考文献①、②)。

●オープンアクセスリポジトリ

OpenDOAR、ROARに登録された一一件のうち(二〇〇九年一月六日付)、香港科技大学、香港大学、香港城市大学、廈門大学のIIR四件と学位論文データベース、プレプリントサーバ各一件が比較的充実している。大学IIRはそれぞれDSpaceを用いて構築され、登録対象は学術論文や研究報告書、講義資料、学位論文、教材等を含む。システム機能を活かして電子資源の総合目録であるOAIsterにデータ提供するなど、世界的な学術交流に寄与している。特に有名大学は科学情報を主としたエルゼビア社の大型データベース、Scirusとも提携して研究成果の利用を促進し、さらに認知度を増すという相乗効果も得ている。廈門大学は「武漢宣言」の理念を実現するために中国語インターフェースを用いたIIRを構築し、国内の学術資源の共有化という点で利便性が高い。中国の事例は少

ないが、原則に基づいたオープンアクセスの実現に一步を踏み出している(参考文献③)。また、香港大学は、香港学位論文オンラインで一九四一年からの学位論文を全文公開している。二〇〇六年にはエルゼビア社と提携して全文検索の機能を追加し、Scirusにもデータ提供している。研究機関のIIRとしては、中国西部環境と生態科学データ中心のseekSpaceがある。中国科学院資源環境科学信息中心が助成プロジェクト成果の収集と管理を行い、全文を公開している。他のIIR同様DSpaceを用いているが、科学論文、野外観察資料、写真やビデオのほか、関連分野のオープンアクセス資源やウェブサイト等、研究成果以外のコンテンツも収録し、主題ポータルサイトの機能を持つ。

次に、プレプリントサーバとして登録されている奇跡文庫の奇跡論文預印本項目は、二〇〇三年八月に物理学を主としたプレプリントサーバ、arXivの成功に影響を受けて中国の若手研究者が構築した。学術研究論文、学位論文、教材等の全文が閲覧できる。主分類は自然科学、工学科学・技術、

表2 プレプリントサーバほか

	ウェブアドレス	登録データ数
奇跡文庫—奇跡論文預印本項目	www.qiji.cn/eprint/	3,713件
中国預印本服務系統	http://prep.istic.ac.cn/eprint/index.jsp	1,560件
SINDAP	http://egroups.istic.ac.cn/cgi-bin/egw_metasweep/2/screen.tcl/name=welcome&service=sindap&context1=full&lang=chi	約80万件
中国科技論文在線	http://www.paper.edu.cn/	27,276件

人文・社会科学で、人文・社会科学はさらに社会学、政治学、法学、経済・管理等、一四項目に分かれる。論文だけを参照したい利用者は広告や関連サイトへのリンクに戸惑うかもしれないが、安定した資金を得るためと見られる。全体としては網羅的で最新動向を主題別に概観するのに役に立ち、オープンアクセスの普及にも効果が期待できる。ほかに、プレプリントサーバとして中国預印本服務系統がある。二〇〇四年に中国科学技術情報研究所と国家科技図書文献中心が共同で構築し、国内・国外のプレプリントを別に収録した二つのシステムを組み合わせている。主分類は自然科学、農業科学、医学科学、工学・技術科学、人文・社会科学で、人文・社会科学はさらに経済学、統計学等、四項目に分かれる。全文が閲覧でき、あれば批評や文章の修正履歴も参照できる。システム紹介のページでは、プレプリントの定義、サービス内容、収録範囲、有料か無料か、査読の有無、転載の可否、版権の所在等について説明がある。投稿論文に対しては、掲載するのに適切かどうかの判断はされるが学術的な査読はない。利用者サービス取決めページに記載されている国の法律や条例を遵守することに同意しなければ投稿できない仕組みになっている。掲載された論文の著作権は著者が所有し、他の学術雑誌への再投稿は自由であるとしている。また、同サイトから国家科技図書文献中心のSINDAPにリ

ンクし、国外のプレプリントへのアクセスを提供している。SINDAPは中国科学技術情報研究所とデンマークの研究機関による共同プロジェクトで、一七の世界的な論文データを横断検索できる。

また、中国の総合的なオープンアクセスリポジトリとして、中国教育部の科学技術発展中心が二〇〇三年に構築した中国科技論文在線がある。既存の出版工程を省き、便利で迅速な学術交流の場を提供することを目的としている。全文が閲覧でき、利用者がリンク付けやコメントも追加できる。主題は数学、電子・通信技術、経済学等、四三項目に分かれている。利用者登録するとサイト管理者からのニュースの受信や検索履歴の保存等ができる。論文の著作権は著者が所有し、文責は投稿者が負うとして国の法律を遵守するよう指導している。他の雑誌への再投稿を認め、新しい学術視点や思想、技術成果の知的所有権を保護するためにサイトに論文を発表した時間を証明できるようにしている。中国預印本服務系統と中国科技論文在線はともに政府の助成金によって構築、運営されている。主要な学術雑誌に投稿する前に他の研究者の意見を求める場として、政府機関がこのようなサイトを設けることは国家の科学技術の発展に寄与するところが大きいと思われる。

●オープンアクセスジャーナル

DOAJ収録のオープンアクセスジャー

ナルのうち、二〇〇九年一月六日現在、一一誌が中国発行である。紙媒体をデジタル化してウェブで無料公開しているのが主で、多くは平行して印刷出版物を販売している。そのうち、オープンソースの電子出版システムを用いたサイトが三件、オープンアクセスを目的とした非営利の学術出版サイトにコンテンツを提供して電子化したサイトが一件ある。自然科学分野の査読付き学術雑誌が多く、最新号の全文が閲覧できるものも少なくない。ほとんどが英語、または中国語との併記で、検索機能も備えている。そのほか、図書館学の分野では一九七九年に中国科学院国家科学図書館が創刊した『図書館情報工作動態』が、二〇〇三年第一期分から中国科学院文献情報系統のサイトで全文公開されている。また、出版物の輸出入を行う国営企業、中国教育図書進出口会社がオープンアクセス資源のワンストップサイトとしてSocial@r (<http://www.socolar.com/?ver=1.0>) を立ち上げている。中国の発行誌を含むオープンアクセスジャーナルの横断検索ができる。

●利用者側の認識

このように情報を提供する側のオープンアクセスの動きが目立つものの、一方では研究者自身の認知度の低さが懸念される。二〇〇五年六月、中国科学院文献情報中心が、科学情報開放獲取戦略与政策国際研讨会でオープンアクセスに対する研究者の認

識について発表している。二〇〇五年三月、科学院の一六研究所の研究者を対象に二五七名にアンケート調査（有効回答二二三件）、二二名にインタビューを行った。その結果、オープンアクセスを知っている、少し知っていると回答したのは全体の五六%、知らないが四三%であった。実際にオープンアクセスジャーナルやIRに投稿したことがある研究者はわずか八%で、今後オープンアクセス出版に投稿するつもりがあるが五九%、ないが三〇%であった。中国の研究者の多くはオープンアクセスに対して好意的な態度を表しているが、利用に関しては改善の余地があるといえる（参考文献④）。また、二〇〇六年三月四月には南京農業大学が、同大学、南京大学、および東南大学の教員と学生三〇〇名を対象にオープンアクセスの認識調査を行っている（有効回答二五四件）。オープンアクセスに関する認知度を測るのに、中国科技論文在線、奇跡文庫、DOAJ、国際的な査読付きオープンアクセスジャーナル、PLoSの四つを知っているか質問し、全部知っているとの回答はなく、三つが一%、二つが四%、一つが四八%、一つも知らないが一七%だった。一つしか知らない回答者が最も知っていたのは中国科技論文在線だった。今後の出版方法の選択では、オープンアクセスジャーナルが二〇%、リポジトリが八%、これまで通りの出版が四五%、混合が二七%だった。ウェブ上の文献に対する

評価では、容易に入手できるが信頼性に欠けるという意見が多かった。全体として、今後オープンアクセスが順調に発展するかはオープンアクセス資源の質が大きく影響すると見られる（参考文献⑤）。学術論文がウェブで無料で読めるというオープンアクセスは図書館サービスにおいても予算の節減、業務の軽減に繋がる。しかし、信頼できる安定したオープンアクセス資源を共有するには、学術資源の主要な提供者であり、利用者でもある研究者、教員、学生等の支持を得ることが重要である。

●まとめ

二〇〇六年初めに発表された中国の国家中長期科学和技术発展規画綱要には、今後十数年の科学技術における発展計画が示されている。初発イノベーションを強化、集積し、導入先新技術を消化、吸収、再革新するという意味の「自主创新」を国家目標に掲げ、中国の科学技術はさらなる発展を目指す（参考文献⑥）。オープンアクセスに関しては、大学をはじめ、様々な組織が政府政策を軸に独自の活動を展開し、徐々に利用者浸透していくと思われる。しかし、政府による情報規制等、問題がないわけではない。世界的にオープンアクセス化が進み、学術資源が充実したとしても規制されたウェブ環境では十分にそれらを楽しむできない。中国でIRやオープンアクセスジャーナルが本当に機能し、成功している

といえるためには乗り越えるべき課題もあるが、前向きな展開を期待したい。

（さわだ ゆうこ／アジア経済研究所 図書館）

《参考文献》

- ①高月起「論図書館的開放獲取理念」〔図書館学刊〕二〇〇六年第五期、二〇〇六年九月。
- ②蕭德洪「連合、開放、網略化―《武漢宣言》解説」〔大学図書館学報〕二〇〇六年第二期、二〇〇六年五月。
<http://hdl.handle.net/2288/350>
- ③陳和「運用DSpace系統構建廈門大學機構存儲」〔二〇〇六年九月〕
<http://hdl.handle.net/2288/95>
- ④Jingli Chu, Lin Li, "Chinese Scientists' Attitudes toward Open Access." (二〇〇五年六月二一―二六日北京で開催された科学信息開放獲取戰略与政策国際研討会での発表) http://openaccess.eprints.org/beijing/pdfs/Chu_Jingli-0A6-3.pdf
- ⑤劉建華・黃水清「国内用戶對開放獲取取認同度研究―以高校調查分析為例」〔中國圖書館學報〕二〇〇七年第二期、二〇〇七年三月。
- ⑥中国研究所編『中国年鑑二〇〇七』大修館書店、二〇〇七年。